ひだご坊
No.275
2012年6月20日

発行　真宗大谷派 高山教務所
発行者　大町慶華
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
＊毎月20日発行　50,000部
三市一郡無料配布
印刷　山都印刷株式会社

念じられ照らされて

「衆生とともに」という課題

戸次公正

（略歴）
一九四八年生まれ。
大谷大学大学院修士課程修了。
大阪府泉大津市南淀寺住職。相愛大学非常勤講師。

私たちは仏教徒であり真宗門徒であることの証として「三帰依文」を唱えます。それは外すことのできない生活規範です。しかし、実際の暮らしの中で、そのことがどれほど自己の在り方を問う目安になっているかと思うと、内心忸怩たるものがあります。

三帰依文を口ずさむ度に私がハッとさせられるのは「衆生とともに」という箇所です。これは言うほどたやすいことではないぞと。

衆生は有情ともいい、原語サワトヴァの意は「あらゆるいのちあるもの」のことです。人間とは別に衆生があるのではなく、人間もまた衆生のひとつの境涯に過ぎないのです。

チベット仏教のダライ・ラマ十四世テンジン・ギャツォ師の講演を聴いた時、始めに次のように言われたことがとても印象的でした。

「私は一人の人間として幸せを求めています。我々すべてがお互いに対して、また虫けらから自然に対して、普遍的な責任をもっています…」

ここには「衆生とともに」生きることを課題としていく決意が明確に現れています。

ひるがえって私たちは、普段の生活でどれほど衆生や自然とのつながりを意識し責任を感じているといえるでしょうか。どこまでも人間至上主義的な妄念妄想にとらわれて、衆生もまた人間の都合のために利用したり、排除したり破壊することを痛しと思っていません。だから平気で原発を作ったり、何が何でも推進することを是としてきたのでしょう。

最近、私は猫たちによって「衆生とともに」という課題を考えさせられました。

寺の傍らで近所の猫たちにエサを与えているおじさんと知り合いました。どうやら苦情が出て肩身が狭いらしい。そこで私は寺の掲示板に一文を添えました。

「いわゆるノラ猫（地域猫）の存在は、我らの身勝手が生み出した社会問題です。これ以上不幸ないのちを増やさないために、猫たちには申し訳ないですが、獣医の協力のもとノラ猫を手なづけて、去勢や避妊手術を行ってきています。これら小さな生き物たちにも、私と同じ重さのいのちが存在するというあたりまえのことに皆が気づく世の中になれば、どんなにすばらしいことでしょう。住職」

たまたまこの文を見たという人たちが訪ねて来て、抱えもつ悩みを語り合いながら「地域猫ー地域に住む猫たちをみんなで共同で管理するシステムー」への取り組みを始めました。するとわが街にもいろんな問題があることが視えてきました。エサやりを一方的に禁止し恫喝する貼り紙や、あからさまな妨害。大人や子どもによる動物虐待も見かけます。これは些細なことではなく、人の心を荒ませていくことが動物はもとより人間をも疎外していくことにつながっていきます。

私たちは、わが街を猫たちにもっと心を配って住みやすくしていけるような動物愛護の文化ゾーンにしようと思い立ちました。それを市長や市議会議員の各位にも「要望書」として提起しました。そこから行政も少しずつ動き出しました。目指すは「地域猫との共生・共存を骨子とした推進条例」を制定することです。

これは猫たちに衝き動かされて歩み始めた「衆生とともに」のささやかな実践です。3・11の大地震・津波・原発爆発の被災地で見殺しにされたり、生き残っている犬や猫たちのことも気になります。原発を完全に廃炉にしていくためには、人間だけでない一切の衆生からの眼差しに呼び覚まされていかなくてはなりません。

住職の言葉

悪人正機

朝日高根組 西教寺
石井宗

昨今、孤独な老人をだまして、預り証と称するただの紙切れをつかませていくという悪徳商法や、電話やはがきなどで相手をだまし、金銭の振り込みを要求する振り込め詐欺などが毎日のように起きています。

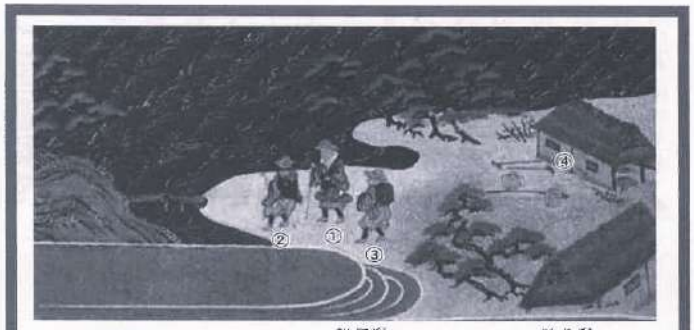
かつて宗祖親鸞聖人の「悪人正機」の教えを逆手にとって会社の経営理念にもちいていたという報道がありました。

この社長は『歎異抄』の「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや」という有名な言葉を身勝手にねじまげて、人間はみんな悪人なのだから少しばかり悪どい事をやっても恐れる事はないと説いていたというのです。

宗祖の「悪人正機」は「いずれの行もおよびがたき身」（『歎異抄』）というお言葉をぬきにしては味わえません。宗祖は若い頃、比叡山で不断念仏僧をしておられました。不断念仏とは、九十日間お堂にこもって不眠不休で、称名しながら阿弥陀如来のまわりをまわるという、言語を絶する行です。

しかし、宗祖は比叡山での二十年の修行で得られた結論が、「いずれの行もおよびがたき身」でした。宗祖は法然上人のお導きによって、そのような修行を全うできない悪人をこそ、救わずにはおれないという阿弥陀如来の誓願に遇われたのです。生涯を通じ宗祖のお心を占めつづけてきたのは、「罪悪深重の凡夫」―いかに罪深い私という自覚だったはずです。

その罪の深さを思えば思うほど、悪人こそ如来のおたすけにあずかれる喜びにかわっていくと、宗祖はご自身を深められたのです。



①親鸞聖人　②西仏房　③蓮位房
④塩焼きの苫屋。塩汲みの桶を担ぐ男が描かれる絵伝もある。
「越後巡錫の様子」

絵解親鸞聖人絵伝24

親鸞聖人絵伝下巻第一段「越後巡錫」

親鸞聖人は、配流地の越後には、海路より国府近くの居多ケ浜に上陸し、国分寺近くの竹之内の草庵で五年近くを過ごされました。一二一一（建暦元）年、赦免の勅許が下り、勅使岡崎中納言範光によってもたらされたといわれています。先に赦免されていた法然上人にお会いするために早速にも上洛すべきところ、冬期のため春を待っている間の一二一二（建暦二）年一月二十五日に、法然上人が亡くなったとの知らせが届きました。親鸞聖人は、そのまま越後に留まり、京へ戻ることをやめ、群萌を教化し専修念仏を勧めるため、越後・北信濃を教化されたと伝えられ、「片葉の葦」「鳥屋野逆竹」「川越の名号」などの伝承が越後七不思議として伝えられています。この後、一二一四（建保二）年、関東へ出立されました。

この場面は、聖人が越後教化の際に、海辺を御供の西仏房、蓮位房と歩いている様子と伝えられています。塩作りのための苫屋が見えます。

『恵信尼消息』から見える親鸞像

聖人の中心軸

井上　円

親鸞聖人の主著『教行信証』のいわゆる後序（流通分）に、「同じき二年壬申寅月の下旬第五日午の時、入滅したまう」と、一二一二（建暦二）年一月二十五日に、法然上人が入滅されたことを記している。この法然上人の入滅の記事を含むいわゆる後序（流通分）の日時が、その後の親鸞聖人の中心的な時間軸になっているのではないかと考えている。これに関わるのが、干支である。干支は、為政者の恣意によって突然に変更される元号とは違って、あれから何年経ったかを知る当時の最良で唯一の方法であり、聖人は元号の後に自分の年令と共に必ず明記している。その一二一二（建暦二）年壬申から十二年毎にやってくる「申」の年が注目される。

一二二四（元仁一）年　甲申
一二三六（嘉禎二）年　丙申
一二四八（宝治二）年　戊申
一二六〇（文応一）年　庚申

一二二四（元仁一）年を「化身土巻」には、仏滅年代（壬申）を数える基準の年として法然上人十三回忌の年を「我が元仁元年甲申」と表現する。次の一二三六（嘉禎二）年丙申二十五回忌に間に合うように関東から京都へ移住をしている。続く一二四八（宝治二）年戊申の一月二十一日、上人三十七回忌直前の日付で、『浄土和讃』『高僧和讃』を著している。最後の一二六〇（文応一）年庚申の前年には、吉水で上人から直接書写を許された『選択集』の延べ書きを書写し、また庚申の十一月十三日には「善信八十八歳」の署名で書状を書き、吉水での上人の「浄土宗のひとは愚者になりて往生す」の教えを確かめている。この十二年毎の「申」の年を、一つの節目とされているようである。

さらに、一二五五（建長七）年六月二十二日、弟子の専信が、親鸞聖人の『教行信証』の書写をし、また絵師朝円の筆によって聖人の絵像（安城の御影）が描かれ、同じ専信に渡されている。これは『教行信証』いわゆる後序に記す、一二〇五（元久二）年の法然上人の『選択集』と真影の書写の許可と同じ形である。自らが師から書物と絵像を許されてから、ちょうど五十年後に、自分の書物と絵像を弟子に許しているのである。

加えて、一二五七（康元二）年二月九日の夜、聖人は夢の中で、

弥陀の本願信ずべし
本願信ずるひとはみな
摂取不捨の利益にて
無上覚をばさとるなり

という夢告を感得している。この和讃は、その前年の慈信（善鸞）[※2]義絶と関係して領解される場合もある。しかし二月九日といえば、その五十年前の一二〇七（建永二）年承元の法難で、吉水の門人が逮捕された日である。聖人はこの夢告和讃を、『正像末和讃』（草稿本）に、改元後の「正嘉元年丁巳閏三月一日」付けで「この和讃をゆめにおほせをかぶりてうれしさにかきつけまいらせたるなり」と明記している。感得した翌二月十日から五十日を過ぎた閏三月一日に記しているのは、改めて四十九日のお勤めの終了を待ってということではないかと考える。またこの前後に、法然上人の最初の言行集である『西方指南鈔』が編集されているのが、特筆される。その中には上人の臨終に起こったさまざまな奇瑞をまとめた「臨終行儀」等を含んでいる。

このような親鸞聖人の「偏依源空一師」を中心軸とする姿勢は、妻と娘に強く印象付けられ、恵信尼と覚信尼の親鸞観の基本と、その違いになっていくのである。

※1善信……親鸞聖人
※2善鸞……親鸞聖人の長男
※3源空……法然上人
※4覚信尼……親鸞聖人の末娘

ご回壇案内

「ご回壇」の日程・会場は左記のとおりです。詳細は会所のご寺院にお尋ねください。

【7月】
1日(日)光雲寺[上　呂]
7日(土)頓乗寺[四　美]
8日(日)速入寺[石　浦]
8日(日)玄興寺[岡　本]
13日(金)浄福寺[小　坂]
14日(土)永養寺[尾　崎]
15日(日)妙覚寺[萩　原]
16日(月)往還寺[一之宮]
17日(火)久々野教会[久々野]
17日(火)桂林教会[下呂]
19日(木)桂林寺[馬　瀬]

同朋会運動 51年目に願いを新たに

今年で「同朋会運動」が50年を迎えます。その新たな歩み出しにあたり、その願いを今一度確かめた上で、わが身を問うている現代の諸問題に向き合い、今後の歩みべき方向をともに考えたいと思います。

日時　6月28日（木）
　　午前10時から
会場　高山別院御坊会館
講師　蓑輪秀邦氏
　　（真宗大谷派教学研究所所長）
参加費　無料

児童 夏のつどい in 恵林寺 ☆ 7月25日(水)～26日(木)開催！

今年の夏のつどいは山村の生活を体験します。みんなで五平餅、豆腐作りをしたり、川遊び、キャンプファイヤーをします。飛騨地域の友達みんなでおもいっきり遊びましょう！

会　場　恵林寺（清見町巣野俣）
参加費　3,000円（食費・保険等 含む）
募　集　80名（対象：小3～6年生）
締　切　7月9日（月）　※定員になり次第締め切り

子ども奉仕団 ☆ 8月19日(日)～21日(火)開催！

東本願寺では、全国から子どもたちが集まり、共に生活し交流を深めています。この夏、みんなで東本願寺で過ごしてみませんか？友達誘ってぜひぜひ参加してください！

会　場　東本願寺（京都市）
参加費　10,000円（食費・保険等含む）
募　集　40名（対象：小4～6年生）
締　切　7月27日（金）　※定員になり次第締め切り

【お申込み・問い合わせ先】高山教務所（0577）32－0776

婦人研修会

日　時　6月25日（月）～26日（火）
会　場　高山別院
講　師　古田　和弘　氏
　　（九州大谷短期大学名誉学長・大谷大学名誉教授）
講　題　「いま、なぜ仏教なのか？なぜ真宗なのか？」
会　費　3,000円
※お問い合わせは高山教務所（☎32-0776）まで

佐奈姫忌法要

佐奈姫（1633年～1667年）は、東本願寺代十三代宣如上人の娘で、照蓮寺宣心にわずか9歳で嫁ぎ、35歳の短い生涯を終えました。その墓前で法要を営み、聞法の座をもちます。

日　時　6月26日（火）午後1時30分から
会　場　松本町佐奈姫墓所・松本町公民館
法　話　大町　慶華　輪番
※別院から送迎があります。参拝される方は午後1時までに別院事務所に集合ください。

定例法座・法話（午後1時から）　○6月21日(木)…中飯田正夫氏　○6月27日(水)…大町慶華輪番　○6月28日(木)…長尾昭夫氏　○7月1日(日)…照元興國氏　○7月11日(水)…大町慶華輪番　○7月13日(金)…牧ヶ野良三氏